

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13537

研究課題名（和文）開発途上国の農業労働者における認知的・社会情動的スキルが労働成果に与える影響

研究課題名（英文）Impact of cognitive and socio-emotional skills on agricultural workers' performance in developing countries

研究代表者

崔 善境（Choi, Seonkyung）

広島大学・グローバルキャリアデザインセンター・助教

研究者番号：70845619

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：開発途上国における質の面に焦点を当てた労働成果（ディセントワークの文脈）での教育のリターンを調査することを目指しており、インドネシアの文脈で新たなディセントワークの5つカテゴリー（雇用、賃金、訓練機会、職場からの健康保険、年金）を構築し、分析を行った。その結果、インドネシアでは職業教育からディセントワークへの影響は特に都市部の男性、さらに、ディセントワークのカテゴリー中でも教育機会や年金に対して大きく生じていた。この結果から、インドネシアにおける職業教育とのディセントワークへのトランジションとの関連性、ディセントワークへのトランジションに繋がるような政策提言が求められることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの認知的・社会情動的スキルについて先進国を対象とした研究の視点に開発途上国の視点が加わる。これにより、新しく開発途上国の環境で、経済的に困窮する環境の中で発達する認知的スキル及び社会情動的スキルに加え、より求められるスキルが何かについて明らかになる。また、比較的、認知的スキルが普通高校修了者より低いと言われている後期中等職業教育を受けた農業労働者の認知的・社会情動的スキルを研究することによって、「インドネシア・ベトナムにおける低熟練労働者の本来のスキルのありかたを把握することができる。これらにより、今後の労働質を高める政策提言を検討することができ、国際的に意義深いと言える。

研究成果の概要（英文）：We aim to investigate the returns of education in the context of decent work (focusing on the quality aspect of labor outcomes) in developing countries. In the context of Indonesia, we have constructed and analyzed five new categories of decent work: employment, wages, training opportunities, health insurance from the workplace, and pensions. The results showed that in Indonesia, the transition from vocational education to decent work was particularly significant among urban men, especially in the categories of educational opportunities and pensions. These results reveal the relevance of the transition from vocational education to decent work in Indonesia, highlighting the need for policy recommendations that could lead to a transition to decent work.

研究分野：教育開発

キーワード：社会情動的スキル 職業教育 教育収益率モデル インドネシア

1. 研究開始当初の背景

伝統的な人的資本理論によるとその投資を通じた認知的スキルの向上は生産性を高め、賃金に影響を与えることによって労働市場の成果における最も重要な要因となる (Becker, 1962)。しかし、Bowles et al.(2001)は賃金の差は、教育年数、年齢、職業経歴などの要因だけでは、20～60%しか説明できないと指摘している。これとともに、労働市場における教育リターンについて認知的スキルが過大評価されている研究結果が多く出ている (Anger & Heineck, 2010; Gensowski et al., 2011)。つまり、雇用や賃金を決める決定的な要因はほかにも存在するし、それは個人の行動特性 (behavioral traits) により説明できるという。同じ認知的スキルを持っている労働者の中で異なる社会情動的スキルを持っている労働者が雇用機会や高い賃金を得る機会が多い(Heckman & Rubinstein, 2001)ということである。近年ではこのような「少年期からの社会情動的スキルが発達することにつれて長期的な生涯にわたる教育及び労働市場成果に影響を与える」(Angstadt et al.,2013, Heckman et al.,2014)という労働市場における社会情動的スキルの重要性を示す研究が活発に行っている。しかしながら、社会情動的スキルに関する多くの研究は、子どもに関する社会情動的スキルの研究であり、労働市場における社会情動的スキルに関する研究については先進国のケースが主となり、途上国のケースはまれである。さらに、労働市場においては、高い認知的スキルは高学歴につながり、高い社会情動的スキルとも強い相関関係があるため、雇用や高賃金の機会が高くなるということを示した研究は存在しているが、教育種別による社会情動的スキルについての研究はまだ確認されていない。そのため、一般的なキャリア・パスである企業で働いている労働者を対象とした研究のみであり、一層、高い社会情動的スキルが必要とする小規模の企業、自営業、農林水産業など様々な分野では行っていない。

このような着想から、アセアン諸国でも経済成長で最も注目を集めているインドネシアとベトナムにおける認知的・社会情動的スキルと労働市場成果(特に雇用の質の面も含めるディセントワークに関わる)の関係性を考察する本研究を実施した。

2. 研究の目的

本研究ではインドネシアとベトナムにおいて、認知的・社会情動的スキルが労働者の最終学歴選択を通して労働市場成果に与える影響を検証する。その際、地域、ジェンダー、職業種別比較を行い、それらの格差についても理解を深めることより、開発途上国の環境で、経済的に困窮な環境で発達する認知的・社会情動的スキルまた、より求められるスキルが何かについてインドネシア・ベトナムの社会のありようのスキル特徴を浮き彫りにすることができる。また、比較的認知的スキルが普通高校修了者より低いと知られている後期中等職業教育を受けた自営農業の労働者の認知的・社会情動的スキルを確かめることによって、「インドネシア・ベトナムにおける低熟練労働者の認知的あるいは社会情動的スキル焦点を当てる教育改善」という教育政策に欠けていた学習改善を実現する知見が広く普及される可能性を高めることである。

3. 研究の方法

本研究では以下の内容で研究手法を採択した。

インドネシアとベトナムの household survey を収集し、典型的な教育収益率モデル、ミンサー方程式を用いてシンプル回帰分析を行う。ミンサー方程式で主な従属変数の賃金と独立変数の教育にインドネシアの文脈でコントロール変数(非認知能力、個人属性、職業的地位など)を増やし、拡張モデルを構築する。分析の中では拡張モデルから生じ様々な分析エラーを抑え、従属変数と独立変数の間の因果関係を示す。最後に、分析から得られた結果からインドネシアとベトナムの専門家にインタビューを行い、結果解釈や論文執筆に反映する。

4. 研究成果

既存の研究では、労働成果を雇用や賃金に焦点を当てたのでその成果が長期的なのか臨時的なのかが分かりにくかったため、本研究では質の面も加えてディセントワーク指標の中でインフォーマル・セクターが広範に存在する途上国の実情に対する新たなアプローチを構築し、職業教育が如何に途上国型ディセントワークへの接続を促進するかについての総合的なトランジション分析を行うことを目的とし、ミックスメソッド研究を行った。労働市場におけるインフォーマル・セクターが60%を超えているインドネシアでは先進国が満たしているディセントワークの

カテゴリーとは距離があった。そのため、インドネシアの文脈で新たなディセントワークの5つカテゴリー（雇用、賃金、訓練機会、職場からの健康保険、年金）を構築し、分析を行った。

本研究期間中には、まず、初年目には文献研究初め、データ収集、データ整理を終え、認知能力（職業教育を終えてからのスキル）とディセントワークの間の因果関係について、特に男女別比較分析を行い、その結果を解釈した。二年目には初年目の研究から得られた成果を国内学会に発表し、論文執筆を行うと同時にインフォーマル・セクターを多く含んでいる地方地域の状況を含め、地域比較（都市部・地方部）分析を行った。三年目にはその結果を国内外学会で発表し論文執筆、論文投稿をした。これらの研究から明らかになったことは、インドネシアでは職業教育からディセントワークへのトランジションが特に男性に対して大きく生じた。さらに、ディセントワークのカテゴリー中でも教育機会や年金の方で統計的に有意水準を示し、このような結果は、予想どおり、都市部に多く生じていた。この結果から、インドネシアの職業教育からディセントワークへのトランジションのレベルアップと地方部の職業教育の質の面を向上させ、ディセントワークへのトランジションに繋がるような政策提言が求められることが分かった。これら成果は科研費最終年度に国際学術誌に2本投稿することができた。

さらに、非認知能力とディセントワークの間の因果関係に関する分析を進め、2023年後半～2024年3月にかけて国際学会で発表し、そこから得られたフィードバックを反映し、論文執筆を行っている。この研究で使われた非認知能力能力は先行研究主に使われている Big five personality traits という5つのカテゴリーで外向性、協調性、誠実性、情緒安定性、開放性である。この研究では、認知能力とディセントワークの間の相関性を確認する際、非認知能力を除くとその影響に関する数値が過大評価されることが分かった。さらに、インドネシアでは雇用状況に対し、誠実性が最も重要な要因であり、情緒安定性は賃金に対しても重要な余韻として働いていることが説明できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Seonkyung Choi, Tatsuya Kusakabe, and Yoshiyuki Tanaka	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Enhancing non-cognitive skills by applying lesson study in lower secondary education: A project in Vietnam	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cogent Education	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/2331186X.2022.2082091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seonkyung Choi	4. 巻 19:3
2. 論文標題 Urban/rural disparities in the wage effect of additional vocational education after formal education: the case of the Philippines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Training Research	6. 最初と最後の頁 229-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14480220.2021.1935296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seonkyung Choi	4. 巻 4:1
2. 論文標題 The impact of education levels and paths on labor market outcomes in South Korea: Focusing on vocational high school graduates	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Sciences & Humanities Open	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ssaho.2021.100152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Choi Seonkyung, Li Huihui, Ogawa Keiichi	4. 巻 101
2. 論文標題 Upper secondary vocational education and decent work in Indonesia: A gender comparison	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Development	6. 最初と最後の頁 102833 ~ 102833
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ijedudev.2023.102833	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Choi Seonkyung, Li Huihui, Ogawa Keiichi, Tanaka Yoshiyuki	4. 巻 21
2. 論文標題 Secondary vocational education and decent work in Indonesia: differences between urban and rural areas	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Training Research	6. 最初と最後の頁 1~22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14480220.2023.2222939	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 崔善境
2. 発表標題 中等職業教育がディーセント・ワークに与える影響の男女比較 インドネシア家計生活調査データによる実証分析
3. 学会等名 国際開発学会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Seonkyung Choi
2. 発表標題 Secondary vocational education and decent work in Indonesia: differences between urban and rural areas
3. 学会等名 Comparative International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Seonkyung Choi, Huihui Li
2. 発表標題 Female Labor Market Outcomes in Indonesia: The Role of Non-cognitive Skills
3. 学会等名 The Education and Development Forum (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Seonkyung Choi, Insik Min
2. 発表標題 Labor Market Returns to Vocational Education and Non-Cognitive Skills in Indonesia
3. 学会等名 Comparative Education Society of Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Seonkyung Choi, Insik Min
2. 発表標題 Cognitive Skills, Non-Cognitive Skills and Labor Market Returns in Southeast Asia: A Comparison between Employees and the Self-Employed
3. 学会等名 Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小川 啓一 (Ogawa Keiichi)		
研究協力者	李 慧慧 (Li Huihui)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	Kyung Hee University			